

地域おこし協力隊 活動記 Vol.98



まだポツポツとだが、咲き始めたフクジュソウ

ついでこの間まで雪に覆われていた自宅裏の斜面に、フクジュソウが咲き始めました。代表的なスプリング・エフェメラルであるフクジュソウは、旧相馬村の村花で、いまでも春の訪れを告げる相馬の代表的な花です。

こんにちは、加賀新一郎隊員です。年齢を重ねたせいかもしれません、季節の移ろいが早くなったように感じています。待ちわびた春を象徴する黄色いフクジュソウから、すぐに薄いピンク色のりんごの花へと主役が代わり、初夏になっていくのでしょうか。相馬の子どもたちには、短い春休み中に相馬の春を存分に楽しんでほしいものです。

春休みといえば、突入2日目の3月26日に穂坂隊員が「棒パン体験イベント」を実施。詳細は穂坂隊員の回に譲りますが、

会場の相馬ふれあい館に6名の子どもたちが来てくれて、棒パンづくりを楽しんでもらいました。当日は、



裏打ちには相馬の和紙を使用

空き時間を利用して子どもたちにもつひとつ参加してもらったのが、「相馬郷土かるた」の製作です。製作といっても、紙漉き隊に漉いてもらった和紙に札を貼ってもらっただけの簡単な作業なのですが、なかには絵札を見て「ここどこ?」と興味を示す子もいて、所期の目標はまずひとつ達成した気がしました。「相馬郷土かるた」は、相馬の名所や史跡、名物などを地域内外の人々に知ってもらおうと作ったもので、市の地域資源活用事業とのコラボで紙漉きに伝わる紙漉き技術による和紙を使用しています。正直にいうと、発端は弘前大学の柴田彩子先生のアドバイス。「凸凹新聞」等で相馬の歴史を

取り合上げているのを見て、「かるたを作ってみたら」と助言してくださいました。子どもたちの協力で完成したかるたは、2セット。当面は希望者に無



収納用の箱にも、紙漉き隊に漉いていただいた和紙を使用している

料で貸し出したいと考えていますので、遊んでみたい方は協力隊までご連絡ください。

3月中旬に行われた「高齢者教室」では、拡大版を使用してかるた遊びを実施したところ、大盛り上がりだったそうです。「買いたい」と言ってくれたさるお年寄りもいたそうですが、今のところ販売できる量産体制が整っていませんので、しばらくは貸し出しのみとなります。個人でも団体でもかまいませんので、ぜひ一度「相馬郷土かるた」で遊んでみてください。いつか、かるた大会のようなものもやれればいいですね。

